

IV 花 き

実 況

1 キク

奥越地区では、秋植え夏ギクの定植が 10 月上旬より開始されている。多くの圃場では 10 月 20 日までで定植が終了した。降雨が比較的多く冷涼な気候が続き、定植作業が遅れ気味となった(表 1、図 1)。10 月上旬中旬の J A キク部会の出荷は、50 箱程度で、数人が出荷を続けている。10 月下旬からは、J A 花卉部会の「ジーニー」等のスプレーギクが出荷されている。病害虫はダニ類、黒さび病や黒斑病が若干みられる程度である。彼岸期にはオオタバコガが見られた。

表1 28年度、平年値との本年度気温比較

気温(°C)	年度			28年度との比較	平年値との比較
	29年度	28年度	平年値		
平均気温	19.1	22.2	19.4	-3.1	-0.3
最低気温	13.2	19.2	15.0	-6.0	-1.8

9/20~10/4までの平均気温

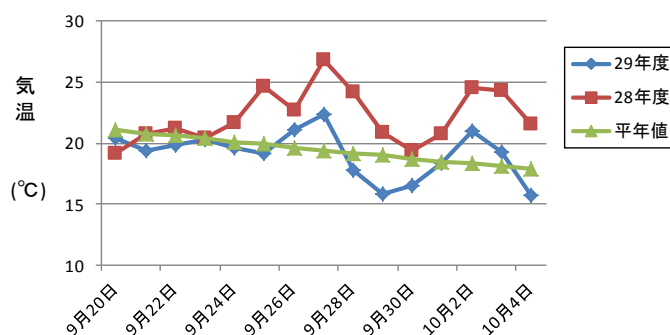


表1 アメダス平均気温の推移(大野市)

れ気味となった(表 1、図 1)。10 月上旬中旬の J A キク部会の出荷は、50 箱程度で、数人が出荷を続けている。10 月下旬からは、J A 花卉部会の「ジーニー」等のスプレーギクが出荷されている。病害虫はダニ類、黒さび病や黒斑病が若干みられる程度である。彼岸期にはオオタバコガが見られた。

春植えギクの親株ハウス伏せ込みは 10 月 26 日に行われた。

あわら市の秋ギクは 10 月 17 日調査で「ミスベティ」が草丈 70cm で開花終了。「銀河」が 88cm、113 枚で 10 月下旬開花予定。寒ギク「雪まつり」は、草丈 75~82cm であった。11 月上旬中旬開花見込みである。

病害虫はオオタバコガ類が小発生、秋ギク「あずま」に萎凋症状がみられた。また、一部の圃場で暮植え作型の定植作業が遅れている(10 月 19 日現在)。

南越地区では、10 月 16 日調査で品種名不明のコギクが 99~129cm で、9 月下旬から 10 月中下旬まで収穫され、ハウス内への親株定植が終了した(昨年 10 月 16 日調査)。

丹生地区では、10 月 16 日調査で 10 月咲きの「ローズ舞風車」収穫終了(87cm)、「金風車」110 cm(78cm)で、開

花ピーク終了。「シューミルク」165cm で収穫はじめ。10 月中下旬から収穫、11 月上旬に終了見込み。今年は排水不良の圃場で花茎が短い。「シューミルク」が 165 cm で収穫始め。病害虫は黒斑、褐斑病多発。一部品種にカスミカメムシ類の被害茎が多かった。

二州地区の 10 月咲きギクは 10 月 17 日調査で、「はくろ」が草丈 80.6cm、開花始め、「お吉」が草丈 96.6 cm (昨年 72.8 cm) で開花始め、「おりづる」が 92.0 で開花終了。本年は 8



写真 1(左) : 萎凋している株
写真 2(右) : 暮植えの状態
(あわら市)

月4半旬の最低気温が低く、秋ギクの開花が早い傾向がある(表2)。

7月下旬～8月1日に定植された寒菊は夏期の高温で苗の腐りが多発し、栽培面積が減少した。「新年の美」が草丈24.2cm、「金ロマン」35.2cm、「雪かすみ」39.4cmであった(昨年10月17日調査)。

若狭地区の施設10月咲きギクは10月17日調査で、「白馬」、「かおり」が収穫終了(昨年草丈108.4cm、開花盛期)、「おりづる」収穫終了(草丈80.0cm、収穫中)とほぼ昨年並みの生育である。施設7月中旬定植11月咲き作型(電照)は、「白馬」草丈77.6cm、未出蕾(95.2cm、蕾径3.5mm)、「おちぼ」44.4cm、蕾径3.8mm(49cm)、「かおり」93.0cm、未出蕾(草丈100.2cm、蕾径4.7mm)。初期生育が悪かったため、昨年より生育が悪い。

寒菊は、「冬一番」が草丈44.2cm(昨年35.6cm)、「寒桜」47.4cm(27.4cm)、「新年の美」34.4cm(28.0cm)で、定植後、花芽分化期の生育不良株が見られたが、全体的に生育は良い。アザミウマ類が少～中発生、ハダニ類微発生。

2 スイセン

10月11日から、7月下旬に定植された促成作型の出荷が開始された(昨年10/10からで、ほぼ平年並み)。季咲き栽培の花芽分化は、9/10時点までは過去より進んでいたが、9/25時点では平年並みの生育にとどまった。越前町梨子ヶ平促成圃場でチョウ目害虫による被害が見られた。

3 トルコギキョウ

坂井地区では、10月17日調査で7月末定植の「北斗星」、「ブランシュール」が草丈60～70cmで、収穫ピークとなっている(写真3)。「サルサマリン」、「はるか」(草丈40～50cm)はほぼ収穫終了。8月上旬定植の「レイナ」シリーズが一番花開花中。病害虫ではカルシウム欠乏が一部にみられ、ハスモンヨトウ



写真3 トルコギキョウ(抑制栽培)

表1 生育調査(敦賀市)

品種名	29年度		28年度	
	草丈(cm)	蕾径(mm)	草丈(cm)	蕾径(mm)
はくろ	80.6	開花始	82.2	9.5
お吉	96.6	開花始	72.8	7.8
おりづる	92.0	収穫終了	87.6	開花盛期

調査日：両年とも10月17日

表2 「お吉」の年次別生育

年度	29年度	28年度	27年度	26年度
草丈(cm)	96.6	72.8	89.2	88.6
花の生育	開花始	蕾7.8mm	開花盛期	—
8月4半旬最低気温(°C)	22.7	24.4	22.1	24.0

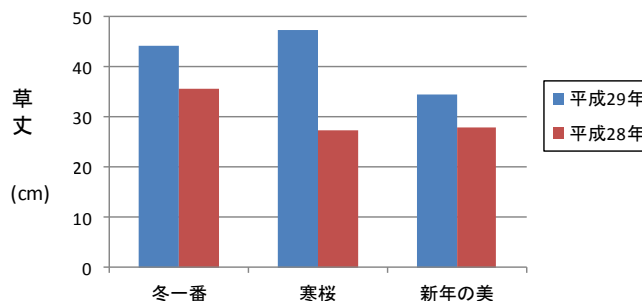


図2 寒菊の草丈(小浜市)
両年とも10月17日

が部分的に中発生。灰色かび病少発生。

越前市では、10月16日調査で苗冷蔵8月定植作型が「レイナホワイト」69cm、「ポヤージュグリーン」75cmで、それぞれ収穫ピーク。年内定植作型は育苗中である。

4 ストック

坂井地区では、8月5日に直播された「ホワイトアイアン」のビビフルフロアブル処理区が10月末から出荷始め。10月17日はJA花咲で作見会が行われた。完全八重種の「ホワイトコランダム」はやや開花が早い。病虫害はハイマダラノメイガ、コナガ、菌核病が少発生。

南越地区では8月22～9月20日にかけてカルテットシリーズが直播された。8月22日播種で草丈25cm、花蕾径4mm、9月12～20日の播種で5～6cmである。

二州の7月24日播種8月中旬定植で、「ブルー」21.4cm、「ローズ」17.6cm、「パープル」21.4cm、「ピンク」17.6cmで、病虫害は、ハイマダラメイガが少発生であった。

若狭地区では10月17日調査で、7月上中旬に直播した「アイアン」シリーズが収穫中、9月上中旬直播の「カルテット」シリーズ(ブルー、チェリー、ホワイトなど)が草丈12～20cmであった。

5 ユリ

坂井地区のスカシユリ「ブラックアウト」は、9月12日定植で44cm(去年は9月7日定植で草丈が55cm)、「カトーネ」が9月18日定植で55cm。やや生育が遅い。10月15日にはユリーム春江でユリ栽培研修が行われた。



写真4 ユリ研修会

あわら市のシンテッポウユリは一部切下球根の掘り取りが行われている。

6 アリウム類

秋咲アリウムは、あわら市のシェード栽培は9月下旬からの出荷になった。草丈90～100cmであった。

丹生地区の季咲栽培は10月16日調査で草丈70-90cmと生育順調であった。昨年並みの収穫期(10月中下旬)

で、一部、ネギユガの被害が見られた。約7,000本の出荷があった(昨年10月18日調査)。

表3 ユリの生育(坂井市春江、9月17日調査)

品種名	定植日	草丈(cm)	葉数
カトーネ	9月18日	55	41
ソルボンヌ	9月18日	23	33
クリスタルブランカ	9月18日	42	58
シベリア	9月23日	33	42
ブラックアウト	9月12日	44	82

7 ハボタン

福井市二日市の切り花用ハボタンの「晴姿」の草丈47cm(10月17日調査)で昨年と同等の生育。東郷の「晴姿」



53～60cm でサイド側が低い傾向がある。「初紅」が草丈 57cm である。病害虫はアオムシ食害がみられる。

坂井市の 7 月下旬定植の「ウィンターチェリー」は、株径 32cm、草丈 41cm でやや大きく、徐葉中である。一部に「チョウ目」害虫の食害がみられる。 写真 5 徐葉したハボタン

8 その他

フリージアは坂井市春江町で約 1000 球、2 品種が 10 月下旬に定植された。あわら市のキンギョソウ「アスリート」シリーズが 7 月中旬定植、ピンチ物が 10 月中旬より出荷中である。

対 策

1 8、9 月咲きギク親株のハウス搬入と管理

1) 親株のハウス内への植え付け適期は 11 月上旬までである。キクの根は地温が 5℃以下になると、新根の発生が悪くなる。本年は冷え込みが早いので、早めの搬入を励行する。奥越地区での目安で 10 月 30 日までに行う。

2) ハウス内に床幅 90cm 前後、高さ 20cm 程度の畝を準備する。土寄せ苗を 7×10cm 間隔で 8～12 条植えで定植する。

3) 植え付け床が乾いている場合は、早めに灌水し適湿にしておく。

4) 植え付け後は保温等を行い、速やかに活着させる。その後、ハウスのサイド側のビニールを、奥越では 12 月いっぱい、若狭地域では 1 月下旬までは開放する。

5) 植え付け後は月に 1～2 回、コロナフロアブル、ジマンダイセンフロアブルやダコニール 1000 等の予防剤で予防散布を励行する。コロナフロアブルはクロムメッキしていない金属部分の鋼管にはかからないように注意する。病気や虫の発生

を抑制するため、適宜下葉かきを行い、風通しを良くしておく。白さび病が発生した場合は、ひどい病葉を取り除いた後にサプロール乳剤などの **EB 1 剤系**の治療剤を散布するが、耐性菌の出現を防止するため、**治療剤**の散布回数は最小限にとどめる。散布後冬孢子堆が変色(褐色)したら効果があったと判定するが、ストロビー系の薬剤は変色しないので注意する。



写真 6 散布後の白さび病 冬孢子堆。



写真 7 ハウス内にトンネル設置して湿度 100%を維持して病斑を蒸し焼きにする。

黒さび病の病斑がみられる場合は、ステンレス剤等で蔓延を抑制する。害虫ではアザミウマ類、ハダニ類の防除を徹底する。

白さび病、黒さび病の発生が止まらない時は、ハウス内にトンネルを設置し、十分に灌水して40～45℃3日間蒸し、冬孢子堆を死滅させる。

- 6) 植え付け後の灌水は控え目に行う。特に植え付けが遅れた場合に土壤水分が高いと、活着不良を助長する。また、灌水する場合は晴天日の10時ごろがよく、灌水後は換気を十分に行う。厳寒期はできるだけ葉を濡らさないように灌水する。

2 スイセンの管理

1) 灌排水対策

今年度は10月に降水量が少ないため、灌水できる圃場では積極的に灌水する。逆に圃場に停滞水がある場合は排水対策を実施する。ハウス栽培で土壤水分が少ない場合は、積極的に灌水を行い、適切な水管理を行う。



T字金具でハウスを固定

2) ハウスの雪対策を早めに行う。

中柱として、パイプや孟宗竹、丈夫な垂木を3～4mおきに設置し、ジャッキなどで突っ張り、補強管理を行う(上部はハウスと連結すると良い)。ワイヤーなどでハウスの肩を引き付ける(積雪荷重によって肩部が広がると倒壊しやすくなるため)。筋交いを補強する(建設時に設置しておく)。



設置面は板を置く

写真8 ハウスの雪害対策

3) 病害防除

病害予防のためゲッター水和剤の1000倍液を散布する。展着剤も加用する。

4) 収穫

花一輪2分咲きで適期収穫する。収穫後はすぐに水揚げを行い、しおれを防止する。

3 ストックの管理

- 1) 昼間の気温を上げすぎると軟弱徒長し、さらに菌核病の発生を助長するので換気に十分注意する。夜温が8～10℃以下に下がるようになれば、夜間はサイドビニールを閉めて保温するが、室温が20℃より上がってきたら、サイドのビニールを開放して、換気を十分に行う。

- 2) ストックのハウ素欠乏症は、葉、茎、花の各部位に発現し、葉の表皮の白化、茎割れ、茎の褐色斑点、開花異常の症状として現れる。ハウ素入り液肥を適時灌注する。

- 3) 出蕾を始めたら灌水、液肥施用は中止し、茎葉を硬くしめる。粘質土など乾きの遅い圃場では、さらに早めにこれらの対策を行う。

- 4) 菌核病は、連作地で発蕾期から発生し、株元から褐変して立枯れ症状で枯死する。灌水は午前中に済ませて株元の乾燥を図り、ポリベリン水和剤やトップジンM水和剤を散布する。後期はアフエットフロアブルを散布し、汚れに注意を払う。

- 5) 収穫適期は3～4輪が開花した時（市場によって多少異なる）を目安とし、手で株を引き抜いて収穫する。抜いた株は株元の緑色の部分で切り戻し、花穂が曲がらないよう真っ直ぐに立てて水揚げする。

4 トルコギキョウの定植作業

- 1) 栽培期間が長いため、特に土づくりが重要である。堆肥を2～3 t / 10a 施用し、30cm以上の深さで耕起する。
- 2) 無加温ビニールハウスでは、遅くとも11月中旬までに植え付けをする。植え付け日の1週間程度前からハウスを密閉して、地温を十分あげてから植え付ける。
- 3) 本葉4枚になると茎が立ち始めるのでその前に定植する。
- 4) 植え付けは、晴天日や暖かい曇天日の午前中に済ませる。
- 5) 多湿条件下では、灰色かび病等が発生しやすいので、換気を十分に行う。発生時にはアフエットフロアブル、ポリベリン水和剤やゲッター水和剤などの薬剤で防除する。
- 6) 育苗中に植え付け後の活着促進のため液肥1000倍を施用する。